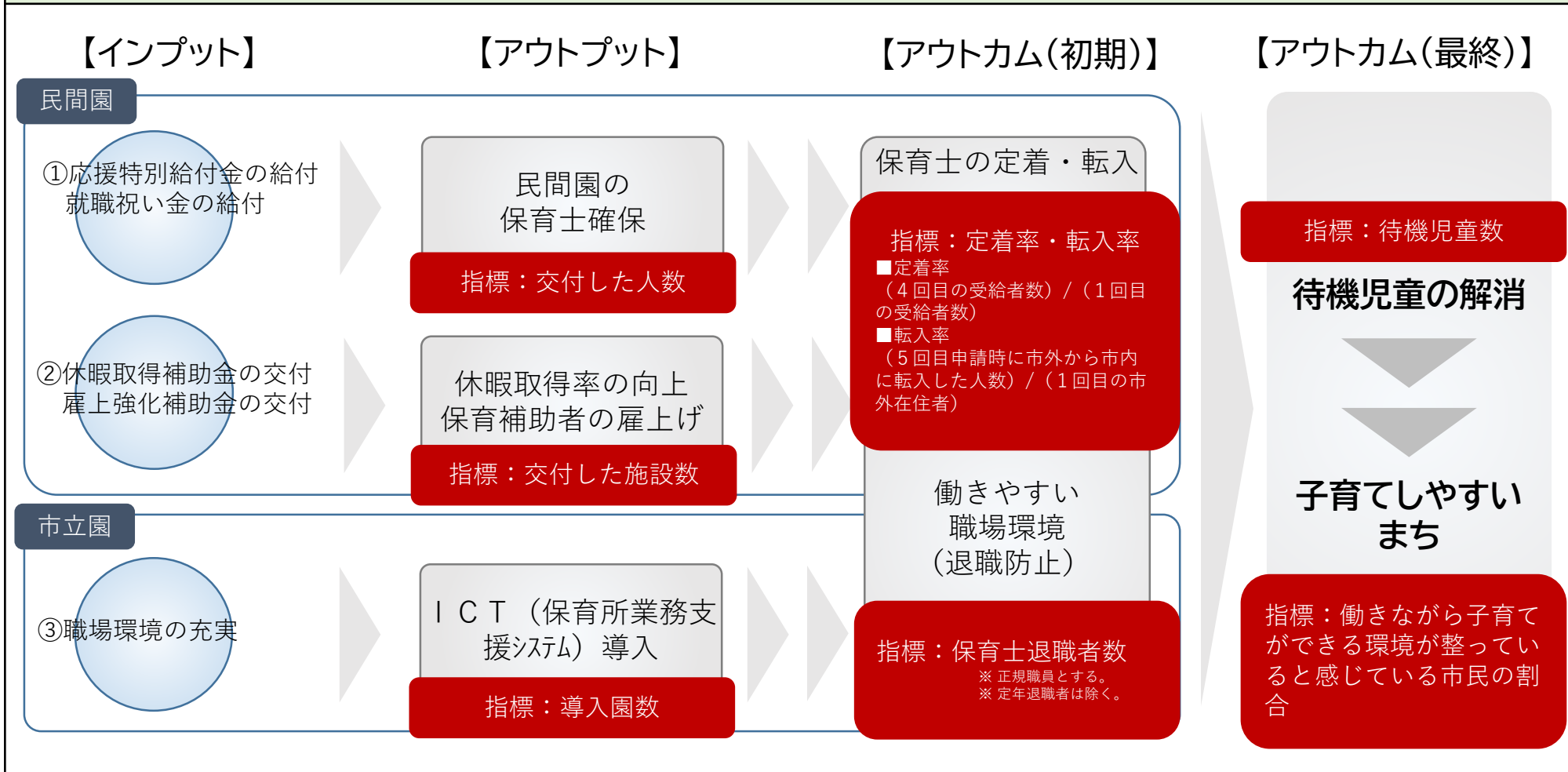


【R5年度】重点目標の取組・概要（待機児童対策[教育・保育施設運営支援事業他]）

担当課（内線）	子育て施設課（内線2767）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上																									
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う																									
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）																										
・これまで本市では待機児童の解消を図るため、保育量の確保に向け取り組んできたものの、その解消には至っていない。 <table><tr><td>年度（4/1）</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>待機児童数</td><td>29人</td><td>27人</td><td>16人</td><td>25人</td><td>27人</td></tr></table> ・待機児童の早期解消を図りつつ、より良い教育・保育環境の充実に向け、取り組んでいく必要がある。		年度（4/1）	R1	R2	R3	R4	R5	待機児童数	29人	27人	16人	25人	27人	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・待機児童ゼロを達成し、「子育てしやすい岸和田」の実現を目指す。 ・「市立幼稚園及び保育所再編方針」に基づき、民間園との連携・協力しながら、より良い教育・保育環境の充実に向け取り組んでいき、子育て世帯の流入拡大・市民満足度の向上を目指す。 【成果に向けての各年度の進め方】 ・保育士の確保・定住促進に向けた補助の実施 ① 「保育士応援特別給付金」「就職祝い金」 ② 「保育士休暇取得促進補助金」「保育補助者雇上強化事業費補助金」 ③ 職場環境の充実（ICT化の促進） ※①②は民間園、③は市立園が対象。 【R5年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ① 新たに民間園に就職する保育士に対し、4年間で最大75万円を支給する。 「保育士応援特別給付金：65万円」「就職祝い金：10万円」 ② 民間園に対し、働きやすい職場の実現に向けた取組みを実施した場合、その取り組み状況に応じ、補助金を交付する。 ③ 市立保育所で勤務する保育士の業務負担の軽減を図るため、ICT化を進め、職場環境の充実に取り組む。														
年度（4/1）	R1	R2	R3	R4	R5																							
待機児童数	29人	27人	16人	25人	27人																							
R5年度の事業費（内訳）																												
①「保育士応援特別給付金」「就職祝い金」 ・新たに民間園に就職する保育士に対する補助金：20,300千円 ②「保育士休暇取得促進補助金」「保育補助者雇上強化事業費補助金」 ・民間園保育士有給休暇の促進に対する補助金：16,496千円 ・民間園保育士業務の補助者雇い上げに対する補助金：76,989千円 ③保育所ICT化 ・市立保育所業務支援システム使用経費：2,741千円 ※①②は「093300_教育・保育施設運営支援事業」 ③は「022900_保育所運営事業」																												
R6年度以降の想定事業費（ランニング経費）		取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い																									
(単位：千円) <table><tr><td></td><td>R6</td><td>R7</td><td>R8</td><td>備考</td></tr><tr><td>①</td><td>32,480</td><td>26,080</td><td>16,200</td><td>R7以降新規なし</td></tr><tr><td>②</td><td>93,485</td><td>93,485</td><td>93,485</td><td>R5と同額</td></tr><tr><td>③</td><td>2,741</td><td>2,741</td><td>2,741</td><td>12か所</td></tr><tr><td>計</td><td>128,706</td><td>122,306</td><td>112,426</td><td></td></tr></table>			R6	R7	R8	備考	①	32,480	26,080	16,200	R7以降新規なし	②	93,485	93,485	93,485	R5と同額	③	2,741	2,741	2,741	12か所	計	128,706	122,306	112,426		・保育所待機児童数（4/1時点） 16人 [R3（2021）] 25人 [R4（2022）] 27人 [R5（2023）] ・働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合(目指そう値) 18.1% [R4（2022）] →21.0% [R8（2026）]	①「保育士応援特別給付金」「就職祝い金」 ・前期計画最終年度（R6年度末）で新規受付終了 ②民間園への補助金 ・見直しを行い、事業効果の薄い補助金は廃止（随時） ③保育所ICT化 ・R9年度に見直し
	R6	R7	R8	備考																								
①	32,480	26,080	16,200	R7以降新規なし																								
②	93,485	93,485	93,485	R5と同額																								
③	2,741	2,741	2,741	12か所																								
計	128,706	122,306	112,426																									

【R5年度】重点目標の取組・ロジックモデル（待機児童の解消[教育・保育施設運営支援事業他]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【財源】

- ・「保育補助者雇上強化事業費補助金」は、保育対策総合支援事業費補助金（保育補助者雇上強化事業）国：3/4
- ・「保育士応援特別給付金」・「保育士休暇取得促進補助金」「保育所ICT」は一般財源。国・府の動向を見ながら財源確保を図る。
 ※保育所ICTに係る導入経費は、デジタル田園都市国家構想推進交付金（国費）を活用済。

【R 5 年度】重点目標の取組・評価シート①（待機児童の解消）

担当課（内線）	子育て施設課（内線2767）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 待機児童ゼロを達成し、「子育てしやすい岸和田」の実現を目指す。
- 「市立幼稚園及び保育所再編方針」に基づき、民間園との連携・協力しながら、より良い教育・保育環境の充実に向け取り組んでいき、子育て世帯の流入拡大・市民満足度の向上を目指す。

■ R 5 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- 保育士の確保・定住促進に向けた補助の実施
- ① 「保育士応援特別給付金」「就職祝い金」
- ② 「保育士休暇取得促進補助金」「保育補助者雇上強化事業費補助金」
- ③ 職場環境の充実（ICT化の促進）
※①②は民間園、③は市立園が対象。

■ R 5 年度において実施・実現できたこと

- ①「保育士応援特別給付金」「就職祝い金」
 - 保育士養成校、イベント等で、周知活動を行った。
⇒応援特別給付金:11,440千円(のべ153名)
⇒就職祝い金:3,000千円(30名)
- ②「保育士休暇取得促進補助金」「保育補助者雇上強化事業費補助金」
 - 民間園への周知活動・案内を行った。
⇒休暇取得促進補助金:17,770千円(28施設のうち28施設)
⇒雇上強化事業費補助金:38,411千円(28施設のうち14施設)
- ③職場環境の充実(ICT化の促進)
 - 令和5年1月より本格運用
 - 運用検討チーム(各保育所より若手保育士2～3名選出)による意見の出し合い
⇒保護者の利用満足度:82.6%(平均)
⇒市立園においては、「保育士の退職防止に向けた取組み(案)」に取り組む。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 5 年度実績値
○	保育所待機児童数	人	25（R4.4.1）	0（R6.4.1以降）	27（R5.4.1）
○	働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合	%	18.1（R4）	21.0（R8）	15.8（R5）
○	保育士の定着率	%	-	-	39.4（R5）
○	保育士の転入率	%	-	-	5.3（R5）
○	保育士の退職者数	人	16（R4年度末）	-	3（R5年度末）

【R5年度】重点目標の取組・評価シート②（待機児童の解消）

■ R5年度において実施・実現できなかったこと

- 保育士確保にあたってポスター、チラシ、市のホームページ、保育士専門サイト等、あらゆる手段を通じ、広報活動を図ったが、十分に浸透しているとは言えない。
- 保育士確保に向け、職場環境の改善（休暇取得、事務の効率化等）は必要だが、更なる職場環境の改善（保育士業務へ専念できる環境づくり、安心・安全な保育体制の構築等）が必要である。
- 保育所業務のICT化を推進するが、そのための電子機器の増設が必要である。
- ICT化を推進するため、保育士向けにパソコン研修を行い、不安解消を図る必要があった。



■ 課題分析

- 広報活動は成果が見えにくいものの、様々な手段・機会を通じ、広報活動を行っていく必要がある。
- 効率的かつ効果的な広報活動（専門サイト、ホームページ等）を中心に、引き続き行っていく必要がある。
- 職場環境の改善については、園それぞれによって課題が異なっており、それぞれの課題解決に向けた補助金の活用が必要である。
- ICT化の推進にあたっては、電子機器の増設（ハードウェアの整備）とともに、パソコン研修も行っていく必要がある。



■ ロジックモデルの振り返り

- 保育士業務が年々増加しており、求められる役割は年々増加しており、退職者が増加傾向にある。
- アウトカム（初期）指標について、より明確な指標となるよう「超過勤務時間数」から「保育士退職者数」に変更する。
- ロジックモデルにおいて設定したとおりの活動を進めているものの、まだ十分に定着していない（効果が発現していない）状況である。保育士の定着、退職防止に向けて、引き続き取り組んでいく。



■ 次年度以降の予定・改善内容

- 保育士の確保及び定着に向け、引き続き取り組みを進めていく。
 - ⇒民間園においては、効率的かつ効果的な補助金を検討し、財源確保策も含め、令和7年度以降の予算要求につなげていく。
 - ⇒市立園においては、「保育士の退職防止に向けた取組み（案）」を引き続き実施する。
 - ⇒市立園においては、保育所業務を支援するため、電子機器の増設及び保育士向けのパソコン研修を実施する。
- 上記の取組みを実施しつつ、国の動向も注視しながら、ロジックモデルのアウトカムの実現を目指す。